



行き止まりの道を進まない

金曜日に夏休みの課題の「力をつける～」を集めたら、三分の二くらいしか集まらなかった。4月当初の色々なものの提出状況と比べると、反省が必要なのではないかと思う。他教科の宿題の提出状況はどうだろう？ つまらないことのように思うかも知れないが、こういうところから「実力」が失われていくのだということをしっかり認識してほしい。

＊

ただし、「力をつける～」から出題した宿題テストの結果を見ると、平均点は64点とそれなりの数字になっていて、ちゃんと勉強した人はしっかり力をつけてくれたように思う。特に93点！とった●●くんは立派だ。

しっかりやって90点以上の実力を蓄えた人がいる一方で、あまり点数が取れていない人もいた。もしまじめに「力をつける～」に取り組むことをしなかった結果がそういう数字になっているのだとしたら、その分実力の差がついてしまっていることを謙虚に認識しなければいけない。金曜日の授業の時（考査前で余裕がないから2問だけしか採り上げられなかったが）、特に重要な問題（部分否定と使役型）について解説して復習したが、あの問題集には、夏休み前までに学習したことの復習と、これから学習することの予習として、重要な内容がたくさん含まれていたのである。

「力をつける～」は、自分で問題を解いた上で、配布してある模範解答を参考にして採点をし、それを提出することになっている。だから、ある人が、「それなら、答えを写してから、○×をつければイイんじゃない？」と言っていた。確かに、そういうやり方でや

ったとしても、我々には「今」は確認のしようがない。しかし、「3年後」には、大学入試の結果などを通して、間接的に確認できるのである。一見すると抜け道のある課題を課しているように見えるかも知れないが、抜け道があることを見つけて得意になって、その抜け道を歩いていくとすれば、3年後に、その道が実はどこにも通じていない行き止まりであったことに、愕然とすることだろう。

＊

以前話した通り、中学校と高校（特に日比谷のような進学指導重点校）との勉強の違いは、「その場しのぎの勉強をしない」「3年後を見据えた勉強をする」ということである。そのことを忘れずに、目の前の課題を誠実にこなすことが大切だ。

「塾や予備校に行かなくても有名大学に進学できる」というのは、日比谷の学習をしっかりとこなした人に当てはまる。つまり、例えば「力をつける～」をきっちりとやる、「夏物語」をきっちりとやる、ということなのである。与えられた課題を、一つ一つ丁寧にこなしていった結果が「塾や予備校に～」という結果に結びつくのである。

そのことをうっかり忘れて夏休みを過ごしてしまった人（課題をキチンとこなせなかった人）もいるのではないだろうか。しかし、今ならまだ間に合う。今なら、一年のたった三分の一が過ぎただけである。不得意科目の克服だって、まだまだこれからだ。

もう一度、4月入学当初の自分の思いを振り返り、日比谷にふさわしい努力を継続する姿勢を確認してほしい。